

原子力発電所再稼働に反対する意見書を求める請願

松阪市議会議員 野口正様

2012年6月11日

請願人 松阪市新座町1056

松阪社会保障推進協議会

会長 多喜正男

紹介議員

今井一久 (印) 久松倫生 (印) 滝住恒幸 (印)

【請願趣旨】

日ごろは市民生活の向上と、安全安心の取り組みなど市議会のご尽力に敬意を表します。

野田佳彦首相が8日記者会見し、関西電力大飯原発（福井県おおい町）3、4号機について、「再稼働すべきだというのが私の判断だ」と明言しました。福島原発の事故原因の究明もなく、大飯原発への地震・津波の規模や危険性の解明もないまま、福島原発のような事故を防止できる体制がととのっているといいました。これこそ「安全神話」の最悪の復活です。また、「国民生活を守る」ためには夏場に限定せず大飯原発を運転する必要があるというものです。今後も原発を「重要な電源」とするとも言っています。こんなことが認められるのでしょうか。

安全対策も暫定的なもので、あらたな規制体制もまだないことを自ら認めながら再稼働とは、「国民生活を守る」どころか危険にさらす許されない判断です。

電力不足や料金値上げになったら生活の安心が脅かされるといいますが、日常生活や経済活動を根本から破壊したのが福島原発事故ではなかったのでしょうか。野田首相が「安全」を偽るとともに、「国民生活を守るため」再稼働が必要だと言い切ったことは重大です。全国どこの原発でもいったん事故を起こせば取り返しのつかない被害をもたらすことを考えれば、しやにむに再稼働を押し付けるなどあってはならないことです。各地の原発で新たな活断層の存在が指摘され、危険性の認識はいつそう高まっています。口先の説明だけで押し付けるのは、国民の安全を考えていないことの証明ではないのでしょうか。

今後も原発を「重要な電源」などというのは、新たな「安全神話」をつくるだけです。本気で「国民生活を守る」というなら、原発に頼らない夏場のピーク時対策に全力をあげるとともに、新たな再生可能エネルギーへの政策の切り替えに本腰を入れるべきではないのでしょうか。

原発の再稼働には(1)福島原発事故の原因究明がされていない(2)政府がとりあえずやるべきとした「安全対策」さえ取られていない(3)地震・津波の学問的知見を根底から見直す必要がある(4)原発事故が起こった場合の放射能被害の予測も住民避難計画もない(5)まともな原子力規制機関がない—など未解決の課題がいっぱいです。この状況での再稼働は無謀極まりないもので、科学的知見も、道理のかけらもなく、再稼働を中止するよう強く求めます。

国民世論はどの調査でも再稼働に反対が多数です。「なぜ原発を動かすことにこだわるのか。政府を動かす“大きな力”が働いているのでは」。福島県から福井県内へ避難されている方の怒りの声が福井の地元紙に紹介されていました。「政府にとって福島県で起きた事故は、もはや別の国の出来事になってしまったのか」と憤っておられます。

原発立地をしてこなかった三重県の自治体として、こんな原発再稼働を許さない、再稼働に反対する意見書をもって議会の意思をお示しいただきたく、請願いたします。

【請願項目】

松阪市議会として、国ならびに関係機関へ「原子力発電所再稼働に反対する意見書」を送りたい。

